

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090500238		
法人名	特定非営利活動法人あやめ		
事業所名	グループホームあやめ		
所在地	長野県飯田市川路2682番地		
自己評価作成日	令和2年2月21日	評価結果市町村受理日	令和2年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://true&amp;JigyosyoCd=2090500238-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022">true&amp;JigyosyoCd=2090500238-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307番地5
訪問調査日	令和2年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、家族会や運営推進会議を通してグループホーム「あやめ」の思いと活動を理解していただけるように努めてきました。そして、「あやめ」の理念、『地域福祉の拠点』となるように、医療連携や看取りの指針を立てて、地域の方のために安心していただけるグループホームを目指してきました。昨年の防災のアンケートの折に現状の課題を訴えたところ、来年度にグループホーム用の発電機を購入して整備することになり、今までより一層安心していただけるようになります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

施設の設備がいろいろ工夫され、よく整備されたグループホームであるのに、開設間もなく建物の南側に隣接する同一法人サービス「さろん あやめ」との間にベランダを新しく設置したり、次は災害に備え非常用の発電機を設置しよう準備したりして、もっと良くしていきたいという思いが強く表れているグループホームである。  
それは、ハード面だけではなく、利用者の様子を手紙で伝えていく方法を探り入れたり、新しくグループホーム独自の理念を創り出そうとしたりするソフト面での強い意欲にも表れてきている。  
これらのことは、管理者を中心とする職員体制の素晴らしさと、地域の方々の大きな支えがあるからだと考える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( )		項目		項目	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)			取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない			

グループホーム あやめ  
(別紙)  
自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で、最後までその人らしく住み続けられる」という法人の理念に基づき、ご家族と利用者さんが好ましい関係を保てるように考慮しています。	グループホーム「あやめ」が開所してから3年目を迎え、「地域福祉の拠点」として着実な実践を続けてきている。隣接する同一法人のサービス「さろん あやめ」とは異なった独自の在り方について話題になってきている。	グループホーム独自の理念を創り上げていきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域のいろいろな方々に参加していただき、グループホームでの様子を伝え、理解を深めています。「あやめ便り」を通じてグループホームの活動内容や日頃の様子を発信しています。また、保育園の交流会を毎月行い、小学校の運動会や音楽会に参加しています。	年4回、「あやめ便り」を地域に回覧して、グループホームへの理解を広げている。地元の職員が多くいて、地域との結びつきも強いものがある。利用者は毎月保育園に行き、園児たちと触れ合ったり、小学校の児童に来てもらって、人形劇や踊りなどを観覧して楽しんだりしている。また、「さろん あやめ」と合同でボランティアの出し物を見物し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域のいろいろな方々に参加していただき、グループホームでの様子を伝え、理解を深めています。「あやめ便り」を年4回、グループホームの活動内容や日頃の様子を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の終了後にアンケートを実施しています。質問や疑問に挙がったことを職員会で報告し、前向きに検討しています。	「さろん あやめ」と合同で2回、グループホーム「あやめ」独自で4回の運営推進会議を開いている。地域のメンバーに多く参加してもらい、グループホームの様子や地域の課題について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの担当者へ出席していただいています。昨年は自治振興センター長に参加していただいたことで、相談がしやすい関係が築けました。	自治振興センターの職員に相談して、ゴミ出しなど地域の課題について解決できてきた。このように、幅広く市の担当者との関わりを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は身体拘束廃止に関する指針を作成し、身体拘束適正化検討会を実施しました。現在の状況確認・実態把握を全員で話し合い、改善の目安や時期について確認しています。	身体拘束廃止に関する指針を作成し、3か月に1回、職員会で話し合い、検討している。職員は、車椅子にマジックテープで留めることは、身体拘束にあたるか、など具体的な問題を出し合い、身体拘束についての理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の学習会を6月21日に介護相談センターにて実施しました。「法人のあゆみと理念」「権利擁護(身体拘束、虐待)について」の話を行いました。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者さんの中には自分で金銭管理をされている方がおりますが、いろいろなことへの理解が徐々にできなくなっているため、今後が心配になります。関わる職員を限定して、金銭の対応もしています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は各事業所で家族会を実施しました。グループホームは10月17日に5家族7名に参加していただき、報酬単価や加算などの変更点の説明や身体拘束廃止に関する指針や重度化・終末期対応の指針の説明をしてきました。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の後にアンケートを実施しています。そこでの意見や提案については、職員会や法人の所長会議でも報告し、話し合っています。	家族会は年1回開き、台風災害の避難所や諸連絡について話し合ってきた。その後のアンケートや、運営推進会議後の感想などを参考にしている。家族の意見や要望などを捉えようとするのはなかなか難しいことであるが、利用者の様子を家族に伝えることはできる、ということで担当職員による手紙を送っている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会で挙げた課題について、法人の所長会議で検討しています。所長会議で解決できないことは、法人の運営委員会で話し合っています。	職員会では、管理者が司会をし、主任が書記をして運営している。職員は、管理者と一緒に仕事をしてくれるので話しやすい、と語っていた。最近では、スピーチロックについてや新しく設置したベランダへの出入りについて話し合ってきた。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の会話の中で職員の聞き取りを行っています。年1回の自己評価や面接の際に各職員が向上心を持って働けるよう心掛けています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員はかつていろいろな事業所や他の介護現場で働いていたので、それぞれが高いスキルを持っていると感じています。それぞれは得意分野で力を発揮しています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、法人内の研修会やオムツに関する合同研修会で各事業所の課題や問題を話し合ってきました。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	私たちは、自分を信頼していただけるようにしっかりコミュニケーションを図り、関係づくりを行っています。利用者さんの心配事にそのつどしっかり向き合い、グループホームが居心地の良い場所になるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	私たちは、利用者さんの思いを尊重したケアに心掛けていることを伝えています。その中で、できることと、できないことがあり、できるだけ正直に伝えることで信頼していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を確認しています。できるだけ、今までの生活が変わってしまわないよう、徐々にグループホームでの生活に慣れていただけるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんに役割を果たしていただけるような場面を探し、提供するとともに、役割を果たしてくださった時は、感謝の言葉を伝え、敬意を持って接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの利用者さんに担当職員を当て、ご家族への連絡は担当にお願いしています。昨年の外部評価の助言により、昨年度から毎月利用者さんの様子を手紙でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの親戚や友人、近所の方々などが気軽に面会に来ていただけるようにお伝えしています。隣の「さろんあやめ」に来る友人や知人との交流ができるように、演芸ボランティアの会などを合同で開催しています。	家族が面会に来たり、親戚や友人、近所の方が訪ねてくるときは、気楽に話ができるような場所を提供している。また、実家に帰ったり、床屋や美容院に出かけたりする利用者もいる。「さろん あやめ」と合同で行うボランティアの会は、友人や知人と出会って談笑できるよい機会になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を職員が共有するように努めています。そして、利用者さん同士が自然に関わりが持てるような環境づくりを心掛けています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者さんにお見舞いいかががい、ご家族に退所の意向を確認させていただきました。ご家族の不安を少しでも軽減できるように相談し、医療機関との連携を行いました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの希望や意向を大切に、日頃からコミュニケーションを大事にしています。また、利用者さんを中心とした支援が行えるような心掛けています。ご家族や関係者から入所以前の情報を得るようにしています。	「アセスメントチャート」の色々なアセスメントを利用して、利用者の意向の把握に努めている。そして、普段の利用者とのコミュニケーションの中で、利用者が発する同じ言葉の繰り返しなどに着目し、「介護記録」に記入し、希望や意向について職員で話し合っている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、これまで過ごしていた施設やお世話になっていたケアマネージャーから情報提供していただいたり、ご家族や地域の方の話を聞き取ったりして、十分な把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解して、持てる能力が発揮できる状況を見極めながら支援に努めています。利用者さんのわかることやできることを職員会などで確認しながら行っています。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人らしい暮らしを支援するため、日々の生活の中から課題を見つけ、担当職員を中心にモニタリングを行い、全員でカンファレンスを行っています。また、ご本人やご家族に意見・要望を聞いて反映し、状況に応じた介護計画を作成しています。	利用者一人ひとりに担当職員を決め、担当職員が中心となってモニタリングして、ケアマネージャーが評価をし、職員全員でカンファレンスを行い、利用者に応じた介護計画を作成している。例えば、眠れないと言って、真夜中に起き出して朝眠る利用者に対しては、夜遅く寝るように働きかけていく、というような具体的な目標を立てている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食量や排泄状況等の他、ご本人の言葉や行動などのできごとを記録しています。その以外に「連絡ノート」を作り、職員間で情報の共有に努めています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、病院への受診や、銀行や美容院・接骨院などの送迎などを支援しています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋や接骨院まで散歩したりしながら行き、気分転換を図っています。また、近くの保育園と毎月、定期的に交流を行っています。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時、状況報告を往診記録に残しながら行っています。利用者さんが薬や体調面の心配事などを、直接先生に話を聞いてもらうようにしています。	それぞれの利用者はかかりつけ医を持って、受診できるようになっている。協力医による月2回の訪問診療があり、また、歯科医の往診を頼むことができる。専任の看護師が健康チェックや医療相談、応急処置などに関わってくれるようになり、安心できる体制ができてきている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度は、専任の看護師に日頃の健康状態や医療面での相談や処置をしていただき、医療連携加算の取得を進めました。緊急時には、「さろんあやめ」の看護師も協力して対応してくれます。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご様子を時々ご家族へうかがい、回復状況などの情報をいただき、退院時には速やかにご本人の状態に合わせた支援ができるように心掛けています。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は、法人の各事業所ごとに家族会を実施しました。グループホームは10月17日に5家族7名に参加していただき、重度化・終末期対応の指針を作成して説明をしました。	延命治療など、重度化・終末期に対応する指針を作成し、看取りまでできることを家族に説明してきている。終末期の利用者がグループホームでの看取りになるかは、家族の意向を踏まえたかかりつけ医との連携した取り組みの中で行っている。治療のため病院へ入院した事例があった。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は、専任の看護師を中心に応急手当や初期対応の訓練を行い、確認しています。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行いました。その内の1回は、「さろんあやめ」と合同で、防災担当者を設置し、研修会に参加し、防災避難計画を作成しました。	5月に消防署の指導の下、「さろん あやめ」と合同で火災時の避難訓練を行ってきた。また、10月には、独自で地震発生時の避難訓練を行ってきた。食料などの備蓄品も備え、非常用発電機を備えていく予定である。	グループホームの現在の場所が土砂災害のイエローゾーンになっている、夜間想定避難訓練を実施していない、という課題を解決していきたい

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームも開所して3年が経ち、認知症が進んでいます。以前に比べ、指示が伝わらない利用者さんが増えていますが、利用者さん一人ひとりがゆっくり過ごせるグループホームを目指していけると良いと思います。	利用者の認知症が進んできているが、職員が時間に追われて仕事をするのではなく、利用者のペースに合わせてゆっくり過ごすように努めている。そのためには、利用者に対する言葉かけが大切で、自分で決めていくように促したりして、コミュニケーションをしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんのそれぞれの状態に合わせて、できるだけ自分で決めていただくように努めています。また、各担当職員がそれぞれの利用者さんの希望や好みを見極め、生活の中へ取り入れるように努めています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせるのではなく、一人ひとりの体調や状況に合わせた個別性のある対応を心掛けています。認知症でできないことに対して、丁寧にゆっくり時間をかけて利用者が理解するのを待たない場面もあります。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな洋服を選ぶように、ご本人の気持ちを配慮した支援をしています。定期的に床屋や訪問美容を依頼し、その人らしさを保てるよう心掛けています。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんと一緒に、野菜の下ごしらえや味噌汁やカレーを作ったり、食器や湯飲み拭きなどをしたりするような、個別にできることを手伝っていただいています。	食費の関係で、昼食・夕食のおかずだけを委託し、温めて出すようになった。朝食と、昼食・夕食のご飯、汁物は調理して出している。このような食事の形態の中でも、日曜日の夕食は皆でカレーを作り、楽しく会食している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食利用者さんと職員が同じ物を一緒に食事をしています。観察しながら、食べやすい形態を検討して工夫したり、食べる量を検討したりして利用者さんの体調に配慮しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には個別に声かけし、口腔・舌のケアを行っています。見守りや、介助が必要な方にもできるだけご本人に行っていただき、できない部分の介助をさせていただいています。利用者さんによっては、歯科衛生士さんに入っいただき、歯磨き指導を受けています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所を分かりやすいよう表示しています。声かけに配慮しながら、ご本人の習慣やパターンに合わせた誘導を行っています。	布パンツ使用1名、リハビリパンツ使用8名の利用者がおり、夜にはオムツを使用している利用者が3名いる。そこで、法人内の勉強会でオムツの使用に関する研修を行い、その対応を学んできている。排泄パターンを把握し、声かけして誘導するようにしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘予防に努めています。日頃から散歩や屋内での適度な運動や手作りヨーグルトを毎日食べて便秘の予防をしています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんの好みに合わせた室温・湯温を心掛け、ゆっくりとお風呂に入りたい方にはゆっくりしていただき、順番やその日入る利用者さんを配慮しています。立位が困難になってもリフトを使って入浴することができます。入浴剤などを使いリラックスした雰囲気を作っています。	広い浴槽の前方部分に設置されていて、職員1人の操作で利用者が座ったまま浴槽に出入りすることのできる、機能的なリフトである。3人の利用者が利用し、利用者も職員も負担が軽くて済むリフト浴である。脱衣所にはエアコンが設置され、安全で快適に入浴できる設備である。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やして生活リズムを整えています。午睡の習慣のない方には、個別にパズルや読書、作業など、自分の好きなことをしていただいています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースに服薬内容の明細を置き、各職員が内容をいつでも確認できるようにしています。確実に服薬できるように管理表へ1日分を並べ、一目で飲み忘れが確認できるようにしています。薬の変更があった場合は、その後の様子などを観察しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん同士が助け合い協力し合って生活を送ることで、良好な関係が作られます。生活に張り合いが持てるように支援しています。個々に得意なことや、お願いできそうな仕事を依頼し、そのつど、感謝の言葉かけをするようにしています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外へ散歩やドライブなどに出かけ、気分転換をしています。小学校での運動会や音楽会、地域の文化祭やお祭りなどの行事に出かけ、楽しんでいただいています。今年度も保育園と月1回定期的に交流会を行いました。食材や日用品の買い出しにも、毎回同行してもらっています。	車椅子使用者2人、歩行器使用者2人いるが、まだまだ歩くことのできる利用者があるので、グループホームの東側に広い道路のあたりまで職員と一緒に散歩に出かけ、犬と戯れて気分転換をしている。また、季節の折々には、車椅子が2台乗ることのできる自動車があるので、ドライブで遠くに出かけることができる。	

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向をうかがい、ご家族の理解を得て、現金を少し持参していただき、接骨院や床屋での支払いをご自分でしていただくように支援しています。利用者さんによっては、銀行にも一緒に行って金銭管理のお手伝いをしています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんによっては携帯電話を持参し、いつでも連絡が取れるように支援しています。グループホームへきた電話にご本人に出て、話していただくこともあります。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースには季節の分るような飾りを飾ったり、花を飾ったりして心地よい空間作りを目指しています。最近、南の窓側のソファにみんなが集まります。	グループホームの建物の中央に、ダイニングキッチンとリビングを広く取り、どの居室からもすぐに出ることができる共用空間になっている。南向きに大きく窓をとってあり、中央にも天井に明かり窓があって、大変明るい造りになっていて、花や飾りや利用者の作品等に飾られ、ゆったり過ごすことができる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が見える窓際にソファを置き、気の合う方々でゆっくり話ができる場所としています。夜テレビを見る際もソファに並んで座っていただき、仲良く過ごしています。今年度は、広いベランダも完成し、天気の良い日は日向ぼっこをしています。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人から話を聞いたり、ご家族から情報をいただいて、自宅から慣れ親しんだ品物や家具(寝具やタンス)などを持参していただき、今までの馴染みのある暮らし方を大切に、それぞれにとって居心地の良い居室になるよう心掛けています。居室は閉鎖的にならないよう、明るく開放的になるように心掛け、馴染みのある品など置いたりしています。	居室の戸には名前が貼ってあり、利用者が迷わないように工夫している。戸の間口を広く取っており、車椅子などの出入りも楽にできるようにになっている。9室それぞれ、東向き、南向き、西向きに面して明るく、収納が備えられたコンパクトで、快適に過ごせる居室である。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室が分かりやすいよう目印や名前を付けています。広いベランダで、利用者さんと一緒に洗濯物も干しています。		